

1988	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
<b>4</b>	•	•	•	•	•	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

●毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
そなえる…用意する、そろえる、用心する  
防備。常備。完備。具備。兼備。  
そなえ…したく、用意、警戒、防御  
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。  
そなわる…準備ができる、身に付く  
...ソナエ アレバ ウレナシ!!

かわさき  
防災広報紙

NO.

44

昭和63年3月31日発行

発行・川崎市

編集・土木局防災対策室

〒210 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL.(044)200-2111内線2841

## 地震の正しいこわがり方。

誰でも地震はこわい。昨年末の千葉県東方沖地震でも、川崎市民の約86%が「こわい」と感じました。

その時の震度は4。もし関東大地震級の揺れがおそったら、青ざめない人がいるでしょうか。

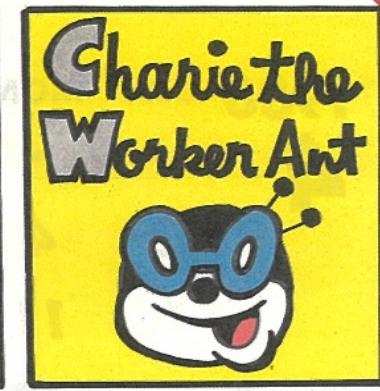
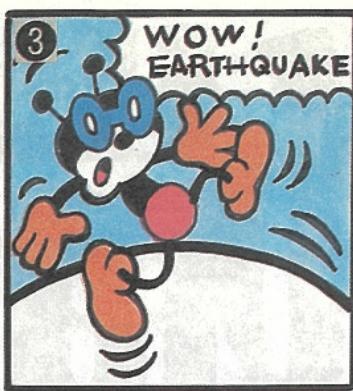
本当にこわいのは、いざという時、気が動転して正しい行動がとれないこと。

本当にこわいのは、いざという時のこわさを知らず日常すごしていること。

地震に勝つために、まず事前の心の準備。そして日頃から地震のこわさをきちんと認識しましょう。

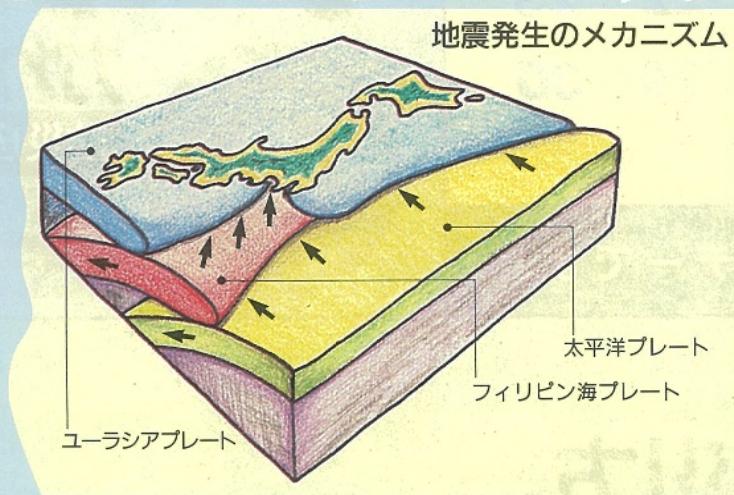
その上で、地震に対する正しい知識を身につけることが大切です。





◎ 液状化現象

液状化とは、地盤が液体のように容易に変形する現象をい、流砂現象と呼ぶこともあります。(下図参照) 昭和39年6月16日の新潟地震で、液状化現象により県営アパートなどの建物が倒壊したのが代表的な例です。千葉県東方沖地震のときも、東京湾の埋め立て地で発生しています。



○ プレート 地球の海底は、プレートと呼ばれる厚さ10kmのいくつかの板状岩盤で、マントル対流の流れに乗って、1年に数cmの速さで動いています。太平洋プレートとフィリピン海プレートが、ユーラシアプレートの下に沈み込みながら、ユーラシアプレートを引きずり込みます。限界を超えたとき、ユーラシアプレートは反発してはね上がり、地震が発生します。

各地で地震が発生し、マスコミで報道されるとき、いくつかの耳なれない言葉が使われます。まだ記憶に新しい、昨年12月17日の千葉県東方沖地震を報道した新聞記事の中から、それらの言葉をひろってみると――

# 地震がおそろう前に、勝負はつく。

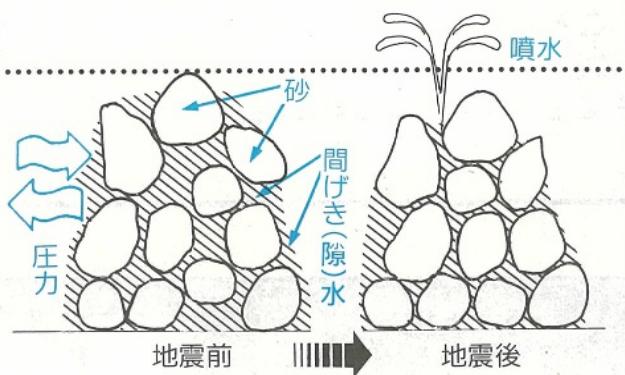
## ○ 東海地震・地震予知

地震予知とは、将来発生する地震について、その場所・時期・規模をあらかじめ知ることです。現在予知が可能な地震は、駿河湾を震源とする東海地震で、規模はマグニチュード8程度とされています。東海地震が発生したとき、震度6以上と予想される地域が、「強化地域」で6県170市町村が指定されています。川崎市は強化地域に含まれません。

関東・東海地域に設置された観測網により常時監視されている観測データに異常が発見された場合、「判定会」が招集されます。判定会により「地震発生のおそれがある」と判定されると、気象庁長官はその旨を内閣総理大臣に報告し、報告を受けた内閣総理大臣は、地震防災応急対策を緊急に実施する必要があるかどうか判断し、必要があると認めるときは、閣議にかけたうえで警戒宣言を発することになります。(下図参照)

千葉県東方沖地震の際に、東海地震との関連が心配されました。関連はないとの見方が有力です。

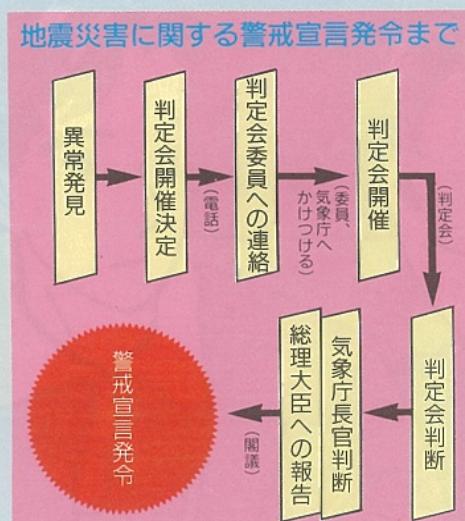
## 液状化現象



地震後に発生した火災がひろがる恐れのあるとき、避難しなければなりません。せまい路地、堀ぎわ、がけ下などは避け、なるべく広い道を選んで通りましょう。また、町内の自主防災組織で避難のための一時集合場所を決めてある場合には、その場所と目的地の避難場所もあわせて確認しておきましょう。

## わが家の地震対策⑦

### 避難場所はどこか、どの道を通るか



千葉県東方沖地震の被害  
中学校構内道路陥没(長南町)

## 体験談44

### まさか王滝に!

長野県西部地震の記録

## 地区避難場所の一時変更

●中原区役所の庁舎建て替えにともない、昭和63年4月から昭和65年9月まで、小杉地区避難場所(中原区役所・保健所)が使用できなくなります。

このため、この付近の震災時の避難場所は、木月地区避難場所(法政大学総合グランド)及び多摩川河川敷一帯広域避難場所(多摩川河川敷及び等々力緑地周辺)になります。

●渡田雨水滞水池建築工事にともない、昭和62年12月から昭和67年3月まで、東小田地区避難場所(南部防災センター周辺)が狭くなります。

なお、この付近には田島地区避難場所(渡田小等)、小田地区避難場所(田島中・京町中等)、京町地区避難場所(県立川崎高等)がありますので、被災情報に応じてこれらの避難場所も使用して下さい。

長野県木曾郡王滝村

昭和59年6月14日8時48分発生  
死者29人、負傷者10人、建物倒壊、流出14棟  
(死者及び建物流出は、主として大規模ながけずれと土石流による)

長野県木曾郡王滝村

昭和59年6月14日8時48分発生  
死者29人、負傷者10人、建物倒壊、流出14棟  
(死者及び建物流出は、主として大規模ながけずれと土石流による)